

## ＜新木場＞気になるスポット 「ベースランド新木場」を訪ねて

文化厚生委員会  
副委員長 山木貞治

過日、5月の小雨降る中、新木場にある屋内野球練習場の「ベースランド新木場」に、月報委員長の深谷理事、文化厚生委員長の馬田理事に同行して頂き、青年部の殿山部員が率いる野球チームのメンバー数名と共に、取材に向かいました。

この施設は、新木場3丁目の材木問屋の倉庫をリニューアルして、4年前にオープンしたそうです。代表取締役の福住高志さんは、港区の学童野球部の監督を務め、3人の息子達に野球をさせたりする根っからの野球好き親父さんで、練習場所の少ない都内在住のため、常々息子達の練習場所の確保に困っていたそうです。そんな時に自己所有の不動産を売却せざるを得ない状況になり、代替資産を探していたところ、この物件に出会ったそうです。この物件は材木屋の倉庫であったので、天井高は4m以上、2階でも大型のフォークリフトを使用していたので、野球の練習程度ではびくともしない強固な構造で有り、1Fと2Fを練習場所として貸し出せば採算的にも合うし、何より息子たちの練習場所にも困らない！！って事で、この倉庫をリニューアルして「ベースランド新木場」を誕生させたそうです。

今回、我々は元オリックスのプロ野球選手、坂本一将さんから特別に指導して頂きましたが、バッティングや捕球のフォームの確認等、一人一人のウイークポイントを瞬時に見抜き、的確なアドバイスを頂く事で、全員の動きも瞬く間に良くなり、さすが元プロ野球選手は教え方も超一流だなと感じましたが、意外に緩い球速での練習だったので、「やはり屋内練習場ではこの程度の球速が限界なのかな？」と思ったのですが、この比較的緩い球速での練習が効果的な様で、フォームを確認しながら練習する事が上達に一番大切な事であり、この施設の広さや設備が丁度良い環境だと言う事です。「なるほどそんな物かな？狭い施設の言い訳なんじゃないの」と思っていたのですが、後日の試合で、青年部の野球チームは、ホームランを打つ等、とても素晴らしい活躍をしたという報告を受けました。今回のメンバーは「ベースランド新木場での練習の成果だ！」と口々に言っていました。

しかし、今回の取材を兼ねた練習で、何が一番驚かされたかと言うと、メンバーの野球に対する姿勢なのです。人数あわせで仕方なく集められた青年部員ばかりだろうと思っていましたが、仕事が終わった後の練習にも関わらず、きちんとユニフォームを着て、マイバットとグローブを持参して、真摯な態度で一生懸命に練習に取り組んでいました。知らなかった事とは言え、私の青年部の野球チームへの認識の甘さを謝罪したいと思います。「ごめんなさい。これからはちゃんと応援します」

とまあ、平日の夜にも関わらず、我々以外にも沢山の人が練習で使用され、大成功を取めているこの施設ですが、人里離れた「新木場」での集客には相当苦労されたそうです。施設の待合室に入ると所狭しと並べられた有名人(主に野球選手)のサインに驚かされるのですが、これも集客の一役を担っている様です。他にもSNSやYouTube等、今を時めくソーシャルメディアを駆使して、現状の集客を確保さ

れた様ですが、一度認知されてしまえば、後は都内近郊で人が少ないという環境が逆にメリットとなり、24時間365日稼げる「がっちり」な施設に変貌したそうです。今後は、このビジネスモデルのノウハウを活かし、2号店、3号店の出店を新潟や大阪で計画されているそうです。我々も「新木場」の先住者として、「木のまち新木場」の地の利を活かした木材需要の拡大方法等、学ぶべき事が沢山あると感じられた取材でした。



ベースランド新木場



野球選手のサイン



福住社長(右)、馬田、山木理事



バッティングフォームの確認



青年部野球チーム



捕球フォームの確認